

農林水産大臣賞及び長崎県知事賞

農林水産大臣賞及び長崎県知事賞



野菜部門（トップファーマー）

氏名（年齢）

田中 一喜（66歳）

田中 将太（36歳）

市町名 雲仙市千々石町

所属集団

島原雲仙農協西部ミニトマト部会

1 受賞理由の要約

- ミニトマト栽培を旧千々石町でいち早く導入し、県内トップクラスの施設規模である。受粉作業省力化のため地域で初めてマルハナバチを導入し、地域内100%普及に大きく貢献した。統合環境制御技術による収量向上にも率先して取り組み、高い単収を実現しているなど、地域農業を牽引している。
- 島原雲仙農協西部ミニトマト部会における共同選果体制の整備や、土壌還元消毒への切り替え等において中心的な役割を果たしている。
- 後継者の将太氏は、島原半島農業士会副会長や普及指導協力委員を務めるなど、新規就農者の育成や、ミニトマト部会の若手生産者の意識醸成にも精力的で、次世代の地域リーダーとして活躍している。

2 経営の概要

	主品目（ミニトマト）	その他（唐辛子、南瓜）	合計
作付面積（頭羽数）	114a	8a	122a
単収	13,038kg/10a	—	—
販売量	105.6t	—	—
労働時間 （うち雇用時間）	16,744時間 （6,216時間）	—	—
家族従事者数	4人	後継者の状況：平成17年就農	
家族経営協定の有無	締結あり（平成21年）		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	エコファーマー認定（平成20年度）、土壌還元消毒実施、生産履歴記帳、資源循環の取組（地域内資源の活用）		

3 特徴的な取り組み

- 環境制御技術を活用したハウス内湿度調整により、病害の発生を抑制している。化学合成農薬の散布回数低減および太陽熱土壌消毒など環境に配慮した安全・安心なミニトマトの生産に努めている。
- 休日制や給料制を取り入れ、農家生活の向上や後継者に対する就業環境の整備に努めている。
- 平成30年度に高軒ハウス33aを新設し、県内初となる「ハイワイヤー栽培」を導入するなど、施設面積1ha超の大規模化と高単収を両立した、収益性の高い経営を実現している。



長 崎 県 知 事 賞

長崎県知事賞

花き部門（トップファーマー）



氏 名（年齢）

しらかわ ひろし
城川 洋（52歳）

しらかわ
城川 ルミ（51歳）

市 町 名 南島原市西有家町

所属集団

島原半島フラワー連合会、南島原市花き振興協議会

1 受賞理由の要約

- （1） ヒートポンプによる燃油使用量の削減だけでなく、夏場の夜間冷房により奇形花や開花遅延等の高温障害を抑制することで、品質の高いきくを市場に安定的に出荷している。また、全国に先駆け電照に用いる光源をLEDに交換し、省エネルギー対策に取り組んでいる。
- （2） 旭川、仙台、新潟、東京など全国各地の市場で販売するとともに、年末、旧盆など需要が高くなる時期で予約相対取引を行うなど安定した販売を実現している。
- （3） 洋氏は、農業士、島原半島フラワー連合会副会長、南島原市花き振興協議会会長として活躍するとともに農大生の受け入れ等若手の育成に努め、本県の花き及び農業振興に大きく貢献している。

2 経営の概要

	主品目（施設輪ぎく）	その他（ ）	合 計
作付面積（頭羽数）	80a	—	80a
単 収	86,454 本/10a	—	86,454 本/10a
販 売 量	691,632 本	—	691,632 本
労 働 時 間 （うち雇用時間）	13,360 時間 （6,360 時間）	—	13,360 時間 （6,360 時間）
家族従事者数	4 人	後継者の状況：本人が後継者（52歳）	
家族経営協定の有無	無し		
安全・安心と環境に調和した農業の取組	防虫ネット、UVカットフィルム、減農薬の取組、資源循環の取組（地域内資源の活用）		

3 特徴的な取り組み

- （1） 重油暖房とヒートポンプを併用し、燃油使用量を削減するとともに、全国に先駆けて電照に用いる光源を蛍光灯からLEDに交換し、電力使用量を削減する等、省エネルギー対策に取り組んでいる。
- （2） 全国的に問題となっている夏場の高温による奇形花や開花遅延を、本県で技術確立されたヒートポンプによる夜間冷房技術を取り入れ、単収、品質向上に結びつけている。
- （3） 旭川、仙台、新潟、東京など単価が高い市場を自ら開拓するとともに、年末や旧盆など需要が高まる時期は、市場と早期に予約相対取引を行い、安定的かつ高値販売を行っている。



長崎県知事賞

畜産部門（トップファーマー）



氏名（年齢）

稲本 俊郎（65歳）

稲本 侑紀（36歳）

市町名 松浦市鷹島町

所属集団

JA ながさき西海鷹島和牛改良組合、
西九州たばこ耕作組合唐津支所、
JA ながさき西海松浦蔬菜園芸部会 等

1 受賞理由の要約

- (1) 平成 28 年度に畜産クラスター事業を活用し、60 頭規模を目標とした繁殖牛舎を建設して規模を拡大した。営農指導員の経験を活かした飼養管理技術と、地域に先駆けた AI や ICT 等の最先端技術の導入により、県平均（395 日）より大幅に短い分娩間隔 342 日を実現している。
- (2) JA キャトルステーションを H22 年の開設当時より活用し、葉たばことスナップエンドウの繁忙期の労力軽減を図る等、効率的な経営に努めている。
- (3) 俊郎氏は、JA ながさき西海肉用牛部会員として肉用牛繁殖経営に携わるとともに、葉たばこ部門では地域の総代として葉たばこ振興にも尽力している。また長崎県指導農業士としても後継者の育成にも貢献している。

2 経営の概要

	主品目（肉用牛繁殖）	その他（葉たばこ・スナップエンドウ）	合計
作付面積（頭羽数）	43 頭	葉たばこ 200a スナップエンドウ 12a	—
単 収	子牛生産率 81.3% 分娩間隔 342 日	葉たばこ 203.7kg/10a スナップエンドウ 1806.7kg/10a	—
生産量 （販売量）	生産子牛 28 頭 （うち販売子牛 28 頭） 成牛 6 頭	葉たばこ 4,075kg スナップエンドウ 2,168kg	—
労働時間 （うち雇用時間）	4,116 時間 （一時間）	1,998 時間 （128 時間）	6,104 時間 （128 時間）
家族従事者数	2 人	後継者の状況：あり	
家族経営協定の有無	有		
安全・安心と環境に調和した農業の取組	エコファーマー（H20）、自給飼料の生産（飼料米含）、生産履歴記帳（平成 2 年～）、生産履歴に基づく販売（平成 13 年～）、資源循環の取組（地域・部門間連携（3 者以上））		

3 特徴的な取り組み

- (1) 畜産クラスター事業を活用して繁殖牛舎を建設し、着実に規模拡大を図っている。
- (2) 侑紀氏の営農指導員の経験を活かし、飼養管理技術、AI や ICT 等最先端技術により発情、分娩、疾病の予測結果を活用して効率的に労働管理を行い、分娩事故がゼロとなるとともに、分娩間隔 342 日を実現している。



研修風景

長崎県知事賞

しまの農林業経営部門（トップファーマー）



氏名（年齢）
 まつざき ひでとし 松崎 秀利（63歳）
 まつざき ひろこ 松崎 弘子（57歳）

市町名 小値賀町

所属集団 JAながさき西海小値賀地区和牛部会

1 受賞理由の要約

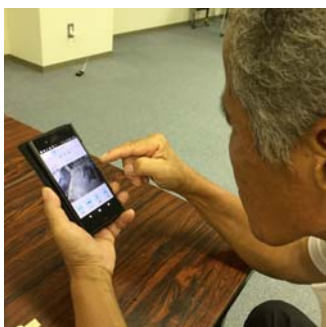
- (1) 成牛は分娩時以外の大半を放牧場で過ごす、全国でも取組例の少ない周年放牧に近い形態で管理し、購入飼料費、自家飼料費ならびに牛舎等設備費を大きく削減している。また、分娩房には4台のカメラを設置してスマートフォンで常時観察可能にし、分娩事故ゼロを実現した。
- (2) 島内の遊休農地を放牧地や牧草地として活用するなど、地域の条件を活かした繁殖牛経営に取り組むことで、農業所得率が50%と非常に高い収益性を実現するモデル経営である。
- (3) 秀利氏は、JA 小値賀地区和牛部会長として小値賀町担い手公社と連携した新規就農者の研修受け入れに取り組まれているなど、地域のリーダーとして活躍している。

2 経営の概要

	主品目（肉用牛繁殖）	その他（ ）	合計
作付面積（頭羽数）	69頭	—	—
単収	子牛生産率 91.3%	—	—
生産量 （販売量）	生産子牛 63頭 （うち販売子牛 50頭）	—	—
労働時間 （うち雇用時間）	5,920時間 （480時間）	—	—
家族従事者数	2人	後継者の状況：なし	
家族経営協定の有無	無		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	堆肥の供給、自給飼料の生産、抗生剤等の使用低減の取組、 生産履歴記帳、生産履歴に基づく販売		

3 特徴的な取り組み

- (1) 二次離島を多く抱える小値賀町で、島内の遊休農地を放牧場や採草地として有効活用するとともに、ICTを活用したスマートフォンと連動した分娩監視カメラシステムの導入により作業の効率化を図っている。



ICTを活用した管理



作業風景

- (2) 成牛は分娩時以外の大半を安全で適度な起伏のある放牧場で過ごす周年放牧に近い形態により管理し、購入飼料費、自家飼料費ならびに牛舎等設備費を大きく削減している。
- (3) 農業所得率は50%と、県基準技術35%より非常に高い。

長崎県知事賞

産地集団部門（いきいきファーム）



組織名 ながさきなんぶしんりんくみあいおおむらししよ
長崎南部森林組合大村支所

代表者名 ししよちょう よしむら けんいち
支所長 吉村 健一

市町名 大村市

発足・設立年 平成14年

1 受賞理由の要約

- (1) 間伐等の森林施業を一体的に実施する「施業の集約化」にいち早く取り組み、大村市の私有林の60%をカバーする森林経営計画の作成や、大村市有林299.79haの経営を受託するなど、地域全体の森林管理を進めている。
- (2) 平成5年に県内初となる高性能林業機械や、現在では一般的な列状間伐を全国で初めて導入した結果、搬出間伐の素材生産性は全国平均の1.3倍となっている。また、成熟した森林資源の循環利用のための主伐・再造林一貫システムや、環境保全を主目的とした針広混交林の施業に取り組んでいる。
- (3) あらゆる規格・品質の丸太を製材、合板、バイオマス（チップ、オガ粉）、輸出用材として採材出荷し、県内の他の森林組合の先駆的役割を果たしている。

2 組織の概要

構成員数 15人（職員2＋現業13）
[組合員数591人]
品目名 原木丸太 搬出間伐、
主伐・再造林
規模 83.9ha（大村市）



搬出間伐

3 活動の特徴

- (1) 森林経営計画の作成および市有林の経営管理受託により産地規模を拡大している。平成28年度からは森林資源の循環利用に伴い、今後拡大が見込まれる主伐・再造林一貫システムにも取り組んでいる。
- (2) 施業地の地形に合わせた森林作業道の開設と、保有する高性能林業機械を組み合わせた作業体系の構築により、効率的な作業が行われている。
- (3) 適正な保育間伐や搬出（利用）間伐の実施により立木の生長を回り、製材用として有利販売に向けた規格での採材・造材、製材用以外でのバイオマス用材の出材を行う等、施業地毎に最大の収益となるようプランニングにより、単収増加に取り組んでいる。
- (4) 「森林の仕事ガイダンス in ながさき」へのブース設置や諫早農業高校生のインターシップの受け入れ、地元小学校の生徒を対象とした林業体験等、林業後継者の確保育成に取り組んでいる。

4 活動の成果

単収 90.6 m³/ha（平成30年産）
現業職員1人当たりの平均販売数量 585 m³/人
販売量 7,603.3m³/年（平成30年産）

長崎県知事賞

地産地消・食農部門部門（いきいきファーム）



組織名 だいち 大地のめぐみ
のうじくみあいほうじん ながさきなんぶせいさんくみあい
(農事組合法人 ながさき南部生産組合)

代表者名 だいひょうりし こんどう かすみ
代表理事 近藤 一海

市町名 南島原市北有馬町

発足・設立年 平成17年

1 受賞理由の要約

- (1) 「農と食を通じて地域の自立と自然の共生を目指す」ことを理念とした直売所であり、環境にやさしい農法で栽培・出荷された安心・安全な農産物が地域の子育て世代の消費者から高く評価されている。
- (2) 直売所の開設により、高齢者や女性農業者が小規模面積の圃場でも生産・販売できる場が確保された結果、耕作放棄地の解消に繋がっている。また安定収入が得られることから若手農業者の定着に結びつく等、地域の農業振興に好循環を生んでいる。

2 組織の概要

構成員数 139人
(うち認定農業者94人)
品目名 農産物 加工品

3 活動の特徴

- (1) 常時販売している40~50種の野菜・果物のうち、特別栽培は約60%、JAS有機認証が約20%である。直売所会員は残留農薬検査を受け、検査結果を直売所店内に掲示している。また、農薬の使用状況の違いをわかりやすく伝えられるよう店内では商品ラベルを色分けしている。
- (2) 集客力を考慮し、産地である島原半島から遠い諫早市に直売所を設置したため、専業農家や高齢生産者の労力負担軽減を目的とした直売所専用のパッケージセンターと配送システムを構築し、会員のバックアップ体制を整備している。
- (3) 諫早農業高生による「ふれあいミニ動物園」等の食育活動や、SNSによる情報発信、長崎市内レストランやこども食堂への食材提供のほか、試食販売、収穫体験、「かかしコンテスト」等の消費者との交流イベントにも積極的に取り組み、H30年度全国直売所甲子園部門別大賞「イベント部門」金賞を受賞している。



トウモロコシ収穫体験

4 活動の成果

取扱額 202,770千円
(平成30年産)
利用人口 153,076人
(平成30年産)

5 今後の展望

- (1) 高齢農業者のための集荷システムを検討するほか、加工品の商品数増加、キャッシュレス機能の端末導入等、幅広い客層に対応可能な店舗づくりを行う。



消費者交流イベント かかしコンテスト

長崎県知事賞

農山村地域保全部門（げんきビレッジ）



組 織 名 NPO^{ほうしん}法人
100年の森^{ねん もり}佐世保^{させほ}

代 表 者 名 ^{だいひょう}代表 ^{かみやま ひてみ}神山 秀美

市 町 名 佐世保市

発 足・設 立 年 平成12年

1 受賞理由の要約

- (1) 「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」をコンセプトに、森林生態学に合致した活動を20年継続し、地域住民参加型の活動を展開している。これまでに63回のイベントを実施し、延べ2万人のボランティアが参加している。
- (2) 地域イベントとして定着した活動を通じて県民の森林保全活動の意識を向上させるとともに、森林の持つ防災林機能や生物多様性保全・景観維持にも大きく貢献している。

2 組織の概要

構成員数 35人
活動内容 植樹・育樹活動

3 活動の特徴

- (1) 佐世保市本来の森林の姿である広葉樹（照葉樹林）が減少・荒廃化している現状から、ふるさとの森を未来の子供たちへ引き継ぎ、地域全体で守る風土を育てるため、地域住民参加型の植樹祭や講演会を20年にわたり開催し、地域イベントとして定着している。
- (2) 植物生態学の権威である宮脇横浜国立大学名誉教授（「いのちを守る森の防波堤（東日本大震災津波対策）」提案者）の指導を受け、地域に自生するどんぐりの採取や、育苗活動からはじめ、植樹会及び植樹後の下刈り等の育樹会まで一連の森づくりを体験型活動として実施している。
- (3) 佐世保市、県をはじめ関係自治体、賛同団体と連絡を密にして会を運営し、効率的で安全な活動を実現している。



4 活動の成果

植樹会 39回、育樹会 24回
のべ参加者数 20,928人
植樹本数 151,000本
植樹面積 58,500m²



5 今後の展望

- (1) これまでは市有地や工業団地立地等の空地への植樹が主であったが、今後は進入竹林や人工林荒廃地の個人有林にも活動を展開していく。
- (2) NPO 法人化することで、理念を引き継ぎ、世代交代を図りながら、今後の長期的な事業展開を図っていく。

長崎県知事賞

都市との交流部門（げんきビレッジ）



組 織 名 やったろう^{で たかしま}de高島

代 表 者 名 ^{かいちょう} 会長 ^{ふくむら} 福村 ^{まなぶ} 学

市 町 名 長崎市

発 足 ・ 設 立 年 平成22年

1 受賞理由の要約

- (1) シュノーケリングピクニック体験や福祉農園、海中体験、川柳コンテスト等、高島の資源を活用したツーリズムの推進により、交流促進・情報発信を行うことで、県外からの来訪者のさらなる獲得に成功し、交流人口を増やしている。
- (2) 大学等と連携した環境保全活動を行うなど、活動の幅を広げている。
- (3) 人口減少の進む離島という環境にあって、交流人口の増加や認知度向上のための活動を行うことで、高島の地域活性化に大きく貢献している。

2 組織の概要

会員数 10人
インストラクター数 7人

3 活動の特徴

- (1) 農家も農地も乏しい高島地域で、海水浴場に自生しているサンゴに着眼し、グリーンツーリズム活動をスタートした。豊かな海中環境を残してきたという面を地域資源として活かし、高島ファンを増やす取り組みを続けている。
- (2) 特許庁に商標として登録されている「シュノーケリングピクニック」のほか、陸上も含め島の自然・生活に直接触れ、これを川柳にする「高島川柳コンテスト」を毎年3日間継続して開催するなど活動を多角化し、新たな交流人口の開拓に取り組んでいる。
- (3) 地域資源として活用しているサンゴについて学術的に検証するため、宮崎大学深見教授のグループと連携して生息調査を実施している。自生のサンゴを守るため、環境教育や清掃活動を行っているほか、本年度からは日本本土地域初となる「サンゴ育成装置」実証実験を開始している。

4 活動の成果

体験者数 1,444人/年
(うち県外者70%)
リピーター率 30%
(うち年度内リピーター10%)

5 今後の展望

- (1) 今後は体験メニューを継続的に提供するだけでなく、福祉農園での栽培で得た成果物の活用や環境講習の充実等により、継続的な雇用創出に取組み、島の活性化に寄与していく。



シュノーケリング指導の様相

長崎県知事賞

農産加工部門（げんきビレッジ）



組織名 かぶしきがいしゃ うんぜん ほんぽ
株式会社 雲仙きのこ本舗

代表者名 だいひょうとりしまりやくしゃちょう
代表取締役社長
くすだ よしくま
楠田 喜熊

市町名 南島原市有家町

発足・設立年 昭和51年

1 受賞理由の要約

- (1) 自社生産のきのこ類以外に地元農産物のトマト、にんじん、じゃがいもなどを積極的に活用し、農産物の付加価値の向上に貢献している。
- (2) きのこの生産および加工製造の活動により、島原半島を主とした雇用の場を創出し、地域活性化に大きく寄与している。
- (3) 直営店舗の活動（商品販売、食事、きのこ収穫体験など）による島原半島内への集客や通信販売、海外輸出による販路開拓など、積極的な事業展開をすることで、県産農産加工品の知名度向上に大きく貢献している。

2 組織の概要

従業員数 219人
(うち加工製造部門 35人)

業務内容 きのこ・麺類・農産物の生産、製造、加工及び販売



3 活動の特徴

- (1) 平成 24 年、食品加工場を新設し直営店「雲か山か」をオープン。きのこやこだわりの食品を紹介、提供している。
- (2) 食材は地元長崎県産にこだわり、地元農家と新しい商品づくり活動や交流を行い、様々な農産加工商品を開発している。看板商品「養々麺」をはじめとし、「ちいさな養々麺」、「冷製とまと麺」、「きのこ牛丼」、「もぎたてきのこポタージュ」、「そうめん de ちゃんぽん」など多数の商品化を実現した。さらに平成 26 年に「養々麺」が「長崎四季畑」に認証された。
- (3) きのこ生産の 1 次産業を母体に、きのこ加工製造の 2 次産業、きのこもぎとり体験・直売の 3 次産業に取り組むことで販売額を年々伸ばしており、6 次産業化のモデル企業体となっている。

4 活動の成果

商品数（加工品） 42 品目
(一次加工品 11 品目、麺類 15 品目、惣菜 11 品目、その他 5 品目)

販売額 616,400 千円（平成 30 年）

